

中学校第3学年 国語科書写学習指導案

市教研統一研究主題

自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成

平成27年度書写部会 研究主題

一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

【仮説 1】 課題意識のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

【仮説 2】 支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

【仮説 3】 評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の工夫の規準を明確にすれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、日常の書写学習に生かすことができるだろう。

授業日時：平成27年10月20日（火）

授業者：貴家 香子

授業展開：3年6組（37名）

協議会場：1階 図書室

千葉市立みつわ台中学校

3年6組 国語科書写学習指導案

千葉市立みつわ台中学校

貴家 香子

1 単元名 身のまわりの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書こう。

2 単元について

中学校三年生は義務教育において最終学年である。小学校からこれまでに身につけてきた書写の能力を総合的に発揮することが重要である。

これまで生徒たちは、中学校に入り行書を学習し、特徴、楷書との違い、調和などを学習してきた。そして文字文化の認識を高め、表現効果を考える力を養うことを目標として学習してきた。そしてこの単元の目標である「身のまわりの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書く」のもと、学習を進めていきたい。具体的には、「身のまわりの多様な文字に関心を持ち」は、社会生活の中で多様な書体や字形の文字や、それらの使われ方に関心をもつことである。「効果的に文字を書く」とは、文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くことである。身のまわりの文字について、その機能や目的について考えることで、文字を効果的に書く意味や文字を書くうえでの工夫について理解を深めていってほしいと考える。

言葉は、文字により記録され、距離や時間を超えて伝達が可能となる。その伝達内容はさまざま、伝達に際して文字が担う役割もさまざまである。特に手書き文字の場合、その文字からは書き手の存在が強く想起され、ときに伝達すべき言語内容を超えて書き手の気持ちや思い、人柄までもが受け手・読み手に伝わることもある。これをより適切に、より効果的に活用することは、書写での学習を通じて身につけるべきことといえる。

「小包の伝票」では、正確に、読み誤りがないように記載内容を記録することである。「往復はがき」では、伝達すべき内容の他に、受け手・読み手に対する礼節ある姿勢や気遣いを伝達するために効果を工夫することが必要である。「包み紙の表書き」では、まさに伝達すべき内容がそのまま受け手・読み手への気持ち、思いである。「エア・メール」では、受け手・読み手側の文字文化に配慮した正確な記録が必要となる。

本時では、今までの書写学習のふり返しとして、身近にある文字を考え、より身近な筆記用具という点で筆ペンを使って書くということ、練習は、絵画用の水書きペンを使って水書きシートに何度も練習することを取り入れたい。水書きシートは、半分が自由に練習を各字で進められるもの、もう半分は祝儀袋の実際の長さの中心線をあらかじめ引いておく。字のバランスなどを自分で考えて練習するものとして使用したい。水書きシートは、少し時間が経つと消えてしまい自分の書いた文字を振り返るといふ点では、あまり向いていないかもしれないが、その分何回も何回も練習することができて、自分の書いた文字を見比べるといふよりも、何回も繰り返し気軽に練習することにおもむきをおきたい。硯に墨をすって筆をつけて書くという動作を、より日常に近い筆ペンを使うことによって、書写を敬遠することなく、身近なものとしてとらえさせたい。

3 生徒の実態（調査人数 36名）

書写のイメージ

書きにくい。(2) 格好いいけど、書きたくない。汚れる。めんどくさい。(4) くさい。(2) 黒い。(3) 昔 地味 難しい。

形良くきれいな字を書く。「止め・はね・はらい」など字の特徴を生かす。(2) お上品
いつもと違う滑らかで美しい。達筆・和 (4)・厳しい・難しい。(2) 日本の文化 (5)
硬筆や毛筆で字をきれいに書く。静かなところで書く。(3) 集中する。(2) 落ち着かせる。(2)
ゆっくり丁寧に書くことができる。冬 (2)・一年の終わり・一年の始まり
鉛筆で書くとときと全然違う。毛筆は表現しやすいが、硬筆は難しい。

行書のイメージ

書きづらい。昔っぽい。(7) 適当に書いている。ぐちゃぐちゃ 曲がる。読みにくい。かすれる。
難しいけど格好いい。難しそう。(4) 字が見にくい。何の字かわからない。ふにゃふにゃ
字のうまい人が書いている。行書って何だってレベルで嫌いです。

はねなどが多く、よく見ると深く一点一画がつながっているように見える。

一画一画をつなげて書く。(6) 格好いい。(6) 上手に見える。

楷書を書きやすいように崩した感じ。読みにくいけど格好いい。大人っぽい。(2) クール

字を書くときに気をつけていることは何か。

他人にわかるように書く。(6) 斜めにならないようにする。きれいに書く。(10)

「止め・はね・はらい」を意識している。(12) 滑らかに書くようにしている。

くせ字にならないようにしている。書き順に気をつけている。(3) 丸文字にしない。

変に遅く書かず、自分独自のはね・はらいを書いている。隙間を空けないようにしている。

文字の大きさ・バランス (4) できるだけ最速で読めるように書く。丁寧に書く。一画目

文字が曲がらないようにしている。漢字を間違えないようにする。気にしない。(2)

筆ペンを使った授業は楽しいか？ その理由は何か？

(34人)

はい 24人

いいえ 10人

はい・・・滑らかに格好良く書ける。(2) うまく書けると嬉しい。(6)

けっこう文字を書くことが好きだ。楽しい。書きやすい。筆より簡単 (2)

新鮮な感じがして楽しい。手間がかからない。(4)

将来結婚式で名前を書くときの練習になったり、格好良く書きたい。

新しい書き方を学ぶのは楽しい。

鉛筆では表せられない線が出るのが楽しい。
細かいところと太いところのバランスがかっこういい。

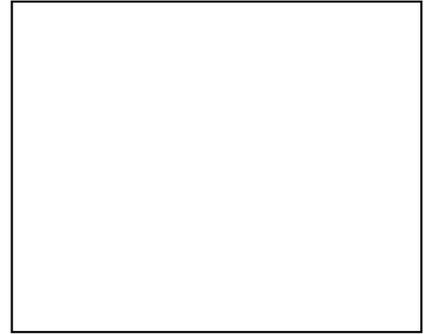
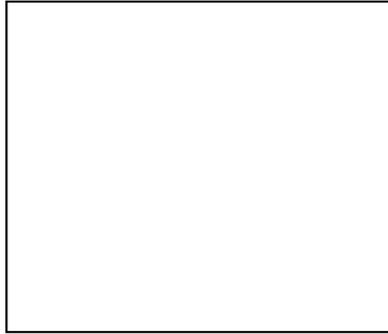
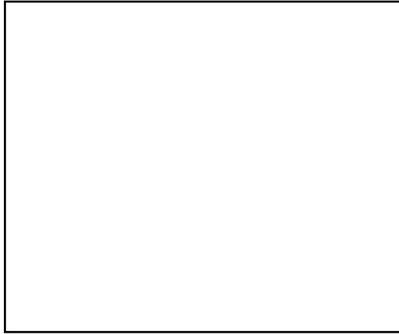
いいえ・・・思ったよりうまく書けない。(8) すぐ失敗してしまう。
つまらないし字を書くのが好きではない。 鉛筆で十分だ。
インクが漏れて手が汚れる。乾くまでに時間がかかる。
失敗したら修正がきかない。

筆ペンを使った授業をして文字を書くことについて変わったことは何か。

- ・以前は、汚い字と思っていた自分の文字が「これ行書っぽい。」友達と盛り上がったりしている。鉛筆でもきれいな文字が書けるように心がけられるようになった。
- ・技能が上がった。(8) コツがわかってきた。前より好きになった。(5)
- ・ただつなげるように書けば良いのかと思ったが、大きく形が変化するものがあったり、はねたり、止めたりなど、いろいろな書き方があるのを知った。
- ・難しいと思っていたが意外と簡単だった。
- ・きれいなつながりが書けたときに喜べる。
- ・速く書けば良いのかと思ったが、意外とゆっくり書かないと美しく書けないことがわかった。
- ・少しかすれるのがかっこういい。
- ・日常的に無意識に行書を書いていることに気がついた。
- ・将来役に立つことがわかっていいなと思った。
- ・すらすらと書けるようになったが、あまりにも書きすぎると読みにくくなる。
- ・一部を省略するなど楽になったので、使うようになった。

初めて自分の名前を行書で書いたもの (シャーペン・鉛筆)

筆ペンを使って書いたもの



筆ペンに慣れて書いたもの



○ 実態による考察

国語の授業でのノートの記述など見ると、かなり乱雑で字のバランスが悪く小さかったり、漢字と仮名のバランス・丁寧さに欠けていたりするなど定期テストのときでさえもうかがえる。丁寧に書こう、他人にわかるように書こう、「止め・はね・はらい」を意識して書こう、きれいに書こうとする気持ちがある生徒が多いのには正直驚いた。文字を書くことには、興味関心は高く、きれいに書きたい、という気持ちはあるもののなかなか実践できないのが現実だということが感じられる。実態調査でもわかるように生徒たちは、書写は、日本の文化・伝統という素晴らしいものと考えた反面、面倒、汚れるなどマイナスなイメージを持っているところがある。しかし今後の生活で筆を持つことはあまり身近ではないが、「字を書いて相手に伝える。」という意味では、生活上必要不可欠なものであることに気がつかせたい。進路を控えて受験校に提出する書類、卒業後も封筒書き、手紙のやりとり、荷物を送る際の宛名書き、のし袋、冠婚葬祭の際の封筒書きなど様々な場面で相手にわかるように場面に応じた字体を使い分けて書くということが必要とされる。コンピュータなどの発達により年々手書きの文字を使うことの少なくなってきたこの時代、日本伝統の筆で字を書くという行為を決して失ってはいけないという意識をもってほしい。

4 単元の目標

- 目的の応じてさまざまな書式を効果的に生かそうと興味・関心を持って取り組むことができる。
- 目的に応じた形式や用具を効果的に生かそうと考えることができる。
- 目的に応じた形式や用具を効果的に生かそうと考える、日常書写との関連を意識して書くことができる。

5 学習計画（3時間扱い）

- 点画の変化や連続の筆使いや配列の書き方を確かめ、理解して書こう。・・・・・・1時間
- 行書と仮名の調和と配列を理解して書こう。・・・・・・1時間
- 身のまわりの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書こう。・・・・・・1時間(本時)

6 本時の学習

(1) 目標

- 文字の持つ伝達性と表現性を考え、日常生活に効果的に生かすことができる。

(2) 本時の学習で検証する仮説

【仮説 2】 支援の工夫

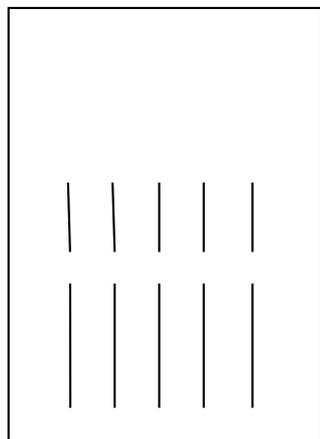
児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

① 筆ペン

行書の練習として、またこれから使う身近な書写の筆記用具として筆ペンを活用することで行書の練習も容易になり、関心を持って取り組む。

② 水書シート

練習用紙として、何回も繰り返し練習できる水書きシートを用意する。祝い袋の中心をとらえられるよう中心線をあらかじめ引いてある部分と自由に練習できる白紙の部分を用意する。



祝い袋にあったサイズの
「御祝」と自分の名前のサイズ

③ 水書ペン

絵画用の水書ペンを使ってシートに書くことで、身近に筆の感覚を味わい、身のまわりには多様な文字のあることを、表現することが身近なものとしてとらえてほしい。

過程	学習活動と内容	教師の指導と評価	資料・教具
気 付 く 八 分	1 今後どのような場面で「文字を書いて伝える」ということがあるか考える。 例 封筒の表書き・祝儀袋・香典袋・年賀状・芳名帳など 2 今日の目標を理解する。	これまでの学習を振り返るとともに、今後社会人になってどのような生活の場面で筆ペンを使うのか問いかける。お家の方がどのような場面で筆ペンを使っているかを合わせて考えてみる。	封筒 祝儀袋・香典袋・ 年賀状
筆ペンを使って行書で祝儀袋を書こう。			
つ か む 十 二 分	教科書にある「御祝」の文字と既習事項の自分の名前を書く。 3 行書で「御祝」と自分の名前を試書する。 4 「御祝」の見本をみる。 5 骨文字で「御祝」を練習する。	本来、御祝いの封筒は楷書で書くことが適切ではあるが、今回はあえて既習事項の行書で書くことを練習するよう伝える。 ご入学・ご卒業などもあるが、教科書の文字を練習することを伝える。 今まで学習したことを振り返り、書いてみる。 今回初めて学習する「御祝」の文字をどのように書くかを見る。 既習事項の「御」のぎょうにんべん 「祝」のしめすへんに注目 あまり崩しすぎないように注意喚起する。	名前カード 筆ペン 祝儀袋 (コピー) 筆ペン 実物投影機 練習プリント (骨文字) 筆ペン

<p>高 め る 十 五 分</p>	<p>6 御祝 自分の名前 を 水書シートで練習する。 何度も練習を繰り返して 練習する。</p>	<p>日常的な場面を想起しながら「伝える」ことを意識して書いてみる。</p> <p>中心をそろえること・字のバランスを考えながら書くように注意する。</p> <p>行書の特徴を生かしながら、今まで学習してきたことを意識させながら取り組む。</p> <p>全体のバランス・中心・連続・止めはね・はらいなど…</p>	<p>悪い例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランス ・中心・配置 ・統一がない。 <p>水書シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に練習 ・中心線を引いておく <p>水書きペン</p>
<p>ま と め る 十 五 分</p>	<p>7 実際、祝儀袋に書く。</p> <p>8 できあがったものを初めに書いた試書のコピーと見比べてみる。</p>	<p>一度コピーで練習をしてから本番に臨むようにする。</p> <p>自分の書いたものや、隣の席の人など見合って振り返る。</p> <p>時間があれば実物投影機に写し良くできたものを紹介する。</p>	<p>祝儀袋(本物) 練習用紙 (コピー) 筆ペン</p> <p>〈 回収 〉 筆ペン 水書ペン 水書シート 祝儀袋</p>

